

学 会 名

学会名 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会
(令和5年6月29日～7月2日)

研究テーマ

回復期リハビリテーション病棟で発生したCOVID-19クラスター下の感染制御における作業療法士の役割

病 院 名

医療法人社団健育会 ねりま健育会病院

演 者

○二瓶太志,
野村征吾, 岸下亜希子, グラハム亮子, 松本夢奈, 奥川裕介, 遠藤春菜, 酒向正春

概 要**【目的】**

回復期リハビリテーション病棟での3度のCOVID-19クラスターの経験から、感染制御における作業療法士（OT）の役割について検討する。

【方法】

対象は、2020年12月-2021年2月の第1期（患者63名、78±15歳、期間34日間、OT34名）、2022年1-3月の第2期（患者80名、79歳±15歳、期間52日間、OT35名）、2022年7-9月の第3期（患者76名、79歳±13歳、期間32日間、OT32名）の回復期リハビリテーション病棟で発生したCOVID-19クラスターである。各期のOTの実施状況と業務内容、陽性者数、クラスター前後のMMSEの変化を調査した。

【結果】

OTの業務内容は、第1、2期は感染制御を優先し、主にケアスタッフとして早番・遅番帯含めた患者見守りやADL支援、環境清拭、医療ごみ廃棄、LINE面会等に従事した。第3期は病棟支援しながら、廃用予防のための認知機能訓練やADL訓練等を行うことができていた。OT単位数は、第1期は0.1±0.6単位/日、第2期は1.5±1.6単位/日、第3期は2.1±1.6単位/日であり、平時より低かった。OT陽性者は第1期3名（院内感染3名）、第2期4名（院内感染3名）、第3期4名（院内感染0名）であった。MMSEは第3期のみクラスター前19.0±9.5に対しクラスター後20.8±9.2であり、有意に向上を認めた。

【考察】

クラスター中も感染対策を確実に実施することで、認知機能やADL能力の維持・向上のためのOT介入が継続可能であり、第3期は認知機能向上に有効であった。一方、第3期のOT感染者は全て市中や家庭内感染が原因であり、クラスター予防と感染拡大防止のため職員の感染予防対策が重要である。